

泉谷満寿裕 (珠洲市長) × 橋本哲哉 (金沢大学副学長)

平 成18年10月9日、奥能登地域の環境調査や研究、地域交流の拠点として能登自然学校が設立された。除幕式を終えた直後、金沢大学との連携に期待を寄せる泉谷満寿裕珠洲市長をお迎えし、橋本哲哉副学長と対談していた。奥能登地域への想いや地域課題、連携事業の展望、将来の夢など話が弾んだ。

学生編集委員 神谷卓史



橋本 2年前のタウンミーティングで珠洲市に伺ったときは、ずいぶん変わった印象を持ちました。若い市長さんになられたからか、フレッシュな感じがします。泉谷さんは、本学との個人的な縁はありますか？

泉谷 昨年、開講された「地域経済塾奥能登

登教室」を受講しました。金沢大学は「堅い」というイメージがありましたが、積極的に地域と関わりようとしていくことがわかりました。

橋本 私の思い出は、大学に入ってから1959年ごろだと思いますが、友達6、7人とキャンプをしながら狼煙まで来たのを憶えています。ところで、以前、のと鉄道をもう一度走らせる計画があると聞きましたが、その後はいかがですか？

泉谷 NPOの方が中心となって計画しています。しかし、予算立てや資金集めなど具体的な動きには至っていません。夢を描くことはできませんが、それを実現していく人材が不足しているのが、本市の課題です。これから人材養成にも取り組まなければなりません。金沢大学にも力を貸していただけたらと思っています。

橋本 もちろん人材養成の面でも力になりたいですし、NPOとの連携やその人材養成のノウハウを蓄えていくことも大学の役割ではないかと思っています。

本学では、「教育」と「研究」に加え「社会貢献」を第3の使命として事業を推進していますが、その社会貢献事業の柱の一つが「角間の里山自然学校」です。今回、設立した能登



橋本哲哉 (はしもと・てつや)
金沢大学理事、副学長、社会貢献室長。文学博士。昭和16年、東京都生まれ。東京教育大学大学院文学研究科博士課程単位修得退学。昭和46年金沢大学法文学部講師、経済学部教授、経済学部長、附属図書館長を経て、平成16年より現職。専門は経済史。

**長期の活動で
地元の人々から
信頼を得たい**

自然学校は、我々の思いが叶った事業です。

泉谷 私にとっても学術的な拠点の設立は夢でした。珠洲市、奥能登はもとも地理的なハンディがあるうえに、学術的なハンディも背負っています。高校を卒業すると、進学のために地元を離れる方が多いんです。また、市民は意欲を持っているけれど、それを実現させる学術的な拠点がなかった。それが、まさか市長になって数カ月で夢が実現すると思っていませんでした。小泊(地区)に説明に行ったときも、住民は「可能性が出てきましたね!」光がさした!と喜んでいました。

橋本 泉谷さんは今年6月に市長に就任されましたが、何か心境の変化はありますか？

泉谷 珠洲がかわいくてしょうがなくありません。祭も伝統文化も自然も食も……いろんなものが日本一だ。この市長になれて幸せやな!と思っています。

しかし、その魅力に気づいていない方が多い。市民が地元の魅力をわかって誇りを持つと、地域の活性化に繋がるんですが、珠洲の魅力が誰が教えてくれるかと言うと、実は市外から来られた方なんです。地元の魅力というのは、他地域の人から「いいとこやね」と言われて初めて気づくものです。そういう意味でも交流人口の拡大を図ってほしいと思っています。

橋本 これから学生たちをどんどん能登に送り込みたいと思っています。街の賑わいのためには、若者が重要な

市民と学生、 研究者がふれあい 珠洲に活気を



泉谷満寿裕 (いずみや・ますひろ)
昭和39年、珠洲市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。野村證券勤務を経て、平成15年、家業で老舗和菓子店の泉谷菓子舗代表に。NPO法人の理事長を務めるなどまちづくりにも積極的に取り組む。平成18年6月、珠洲市長選で初当選した。



「能登自然学校」
設立記念特別対談

特集

3 「能登半島 里山里海自然学校」
奥能登の魅力を掘り起こす
地域活性化の強力ネットワーク

記念対談

6 「能登自然学校」設立記念特別対談
珠洲市長 **泉谷満寿裕** × 金沢大学副学長 **橋本哲哉**

自然・文化

8 里山里海自然学校'06同行記
能登のNPOと手を結び
さらに広がる体験活動の輪

地域課題

10 特色ある法曹教育で差をつける
地域貢献にも結びつく
法科大学院の法律家育成

人材養成

12 化石採集、化学実験、ディベートサロン…etc
「理科離れ」の子どもたちを呼び戻せ
無限の可能性を引き出す教育連携

医療・保健
・福祉

14 骨密度が上昇し、心も穏やかに
草花がもたらす心身への好影響
鶴間キャンパス「園芸療法」最前線

医療・保健
・福祉

16 白山現地ルポ
登山者の健康を守る
雲の上の診療所

Topics

18 「金沢大学タウン・ミーティングin羽咋」
地元の要望を聞き出し
きずなを深めた2時間

編集委員紹介

役割を果たすと思います。この学校を研究や自然学校的な活動だけでなく、例えば学生がゼミ合宿をするなど、教育の拠点としても活用したい。

また、学校に常駐することになった赤石君のような、博士号を取った若い有能な人材が本学にはたくさんいます。彼らにも自然学校のような準研究機関をステップに、研究者

として飛躍してほしいと思っています。その意味で、若手研究者も途切れることなく送り込みたいと思っています。

泉谷 市民と研究者や学生の交流が生まれば嬉しく思います。この学校が学術的な拠点としてだけでなく、人材育成やNPOのお世話もする拠点にまで発展してくれたらいいですね。さらには「環境学部」のキャ

ンパスが設立されるまでに発展すればいいなと期待しています。(笑)

橋本 新学部設立は大変な難問ですが、今回、支援をいただいている三井物産のような会社が10社ほど集まれば、その可能性は高まるのではないかと思います。医学部では、寄付講座などスポンサーのついた講座があるので、いわゆる冠学部のような形で夢が現実になるかもしれません。

せん。それを考えると、この学校の研究的な成果も重要ですね。そのためにも、長期的に足場を置いて地域の方に信用される活動をしたいと思っています。

泉谷 私も継続的な活動になるように、地元の体制を整えていきたいと考えています。

橋本 今後ともよろしくお願いします。本日はありがとうございました。